



## TOP MESSAGE

### 目の前にいる人の心を少しでも動かす、そこから感動が生まれる

現在は「だしのギャラリー」をテーマにした『だし廊-DASHIRO-』、煮干しダシをメインとする『だし廊-NIBO-』、多彩なダシのハーモニーを楽しむ『だし廊-Mix-』、節をフィーチャーした『だし廊-BUSHI-』の4店舗を運営。いずれもコンセプトが異なりますが、そのオペレーションや店作りの大部分をスタッフに一任しています。それは、どんなサービスが喜ばれるかを熟知するのは、その店のスタッフだから。マニュアルに頼らず、一人ひとりのお客様と向き合い、ラーメンを通じ「心地よい時間」を提供することを一義としています。



「日常の感動」を大切にしています



profile  
代表取締役 原田 佳和

1 Daily a little entertainment (日常の中での小さなエンターテインメント)を理念に掲げ、お腹を満たすだけでなく、お客様の心も少し満たすことを目指している。2 仕事はマニュアルに縛られず、スタッフが感じるコトやモノをサービスにつなげていくことを大切にしているという。3 本会社に併設された「だし廊-LABO-」では、日夜新メニューの開発が行われている。4 「だし」を活かすためのタレと麺。日本人の感性に訴える、まさに珠玉の一杯だ。5 現在運営するのは『だし廊-DASHIRO-』『だし廊-NIBO-』『だし廊-Mix-』『だし廊-BUSHI-』の4店舗。いずれも異なるコンセプトの下、「ここにしかない味」が楽しめるよう工夫がなされている。

#### 会社情報

- 設立 2018年12月
- 代表 原田 佳和
- 資本金 300万円
- 従業員数 90人(男38人、女52人)

本社  
〒980-0811  
仙台市青葉区一番町1-15-19  
旭トークビル202  
TEL/022-281-8968  
FAX/022-281-8967  
<https://www.broth-up.com/>

#### 求人情報

- 初任給 研修期間180,000円～、初任給200,000円～(職種によって異なる)
- 福利厚生 社会保険完備、健康診断、交通費支給、扶養手当あり、資格取得支援あり、社内研修あり、親睦会など
- 休日休暇 シフト制(月8～10日)
- 職種 店舗運営職(ホール、調理、店長候補)、経理事務、商品開発、動画クリエイター
- インターンシップ受け入れ/あり ■大学生アルバイト受け入れ/あり
- 採用担当者連絡先/ [dashiro.saiyo@gmail.com](mailto:dashiro.saiyo@gmail.com) (採用担当 針生)

採用ページはコチラから



マイナビ リクナビ

- 会社案内請求
- 自社説明会
- 会社見学

■採用までの流れ

- ① 会社説明会
- ② 1次選考
- ③ 内定



file16

## 株式会社ブロスアップ

飲食業、店舗プロデュース業、コンサルティング業、製造販売業

### 「ラーメンを食べる」時間に小さな感動をもたらすために

店で過ごす時間を、あなたが幸せなものへ

2016年にオープンして以来、またたく間に屈指の人気ラーメン店となった『だし廊』。「だし」にこだわり、その組み合わせや引き立て方で生み出す独自の味は、各メディアの人気ランキングで軒並み1位をさらった。現在は4店舗目となる『だし廊-BUSHI-』をオープンさせ、ますます業績好調だ。

その経営母体である『ブロスアップ』が、社員へ最初に説くのが「一人ひとりが、小さなエンターテイナー」なれ」ということだ。その意図は来店客に対し「ラーメンを食す」という体験だけでなく、心が動くような「日常の中の小さな感動」を与えよ、というもの。スタッフ一人ひとりが客の一人ひとりに目配りをし、声をかけ、店で過ごす時間そのものを楽しんでもらうことを心がけている。日常の中の小さな感動を創り出すために、新しい視点で創造的な発想を生み出すための専属チームも設けているという。

未知の領域にチャレンジし、新たな道を切り拓く。それを楽しめる人であれば、同社での仕事を楽しく実りあるものになるはずだ。

代表取締役の原田さんは、社員に求める資質を次のように話す。「何でも好奇心を持って楽しめる人がいいですね。1日のうち7～8時間ほど働くとして、人生のかなり大きな部分を「仕事」が占めていることとなります。仕事には「課題解決」がつきものですが、それを楽しめるかどうかで人生が実りあるものか、そうでないかが決まるものか、とても過言ではありません」

『ブロスアップ』は現在、順調に店舗数を増やす一方、ラーメン店のコンサルティングや、自宅で店の味が楽しめる『だし廊-HOME-』のECサイト販売など、業務領域の拡張にも意欲的だ。そこには流行に対するアンテナ感覚や発想力が求められるが、その源泉となるのはやはり、原田さんがいう「好奇心」だ。